ま　え　が　き

朝　比　奈　泰　彦

一昨年（昭和 33 年）は東京大学の植物学第一講座（分類学）第 2 代目の教授であつた故早田文蔵博士が昭和 9 年に逝去されてから 25 周年に当るので早田博士の親友である八田吉平氏が早田博士の追憶文を投稿されたのを機会に早田教授に師事した佐竹義輔君や早田博士在職期最後の学生であつた木村陽二郎君の感想を執筆して頂き更に早田博士の印度支那，タイ国採集旅行の足どりを津山尚君が記述した文章を挿入して本号の主体を構成した。早田博士逝つて四半世紀の今日に以上の記録が我国植物分類学の推移を考察する一資料となることを期待する。

八 田 吉 平*：盟友理学博士早田文蔵君追憶

Yoshihei HATTA*: Memory of my friend, Dr. Bunzo HAYATA

早田文蔵博士は私の生涯中の莫逆の親友であり又畏友である。その印象は深く思い出は綿々としてつくる処がない。一昨年の秋，博士の愛嬢秋山博士夫人幸子さんから，郷土加茂図書館より展示会に，記録その他を要請されたについて私に書く様依頼されたが当時は簡単な記事を作つたにすぎなかつた。所が昨秋また幸子さんから 33 年 1 月 13 日は故人の 25 回忌に当る故，今度は委しく書くよう依頼を受けたので，博士の略歴等の資料を得，旧稿に更に記憶を喚起し，思い出を追加し，全面的に書き改めたのが本稿である。本稿は博士と私との多年の交遊を主とした追憶である。博士の青壮年時代の面影を偲ぶ一端ともなれば，幸慶とする処である。

1. **一高生時代**　私が早田文蔵君と相識るに至つたのは今から丁度 62 年前の明治 30 年 8 月私達が共に旧第一高等学校に入学した時に溯る。君は郷里新潟県の長岡中学校の 3 年生で一時退学，後志をたてて上京，郁文館中学校を経て一高に入学された。君は明治 7 年 12 月生で私より 4 年の年長者でクラス中の年輩者の一人であつた。当時理科と農科とは志願者も比較的少なかつたので 2, 3 の工科生を交えて 1 クラス (40 人) を構成していたのでわれわれは 3 年間同クラスで終始した。同級生には後の東北大学教授故愛知敬一博士，故後藤平一（愛知君と双璧の俊秀であつたが成業をみず早逝），農林省耕地課の重鎮片岡謙，気象学者平田徳太郎博士，航空機学者岩本周平及び当時のスポーツ界の呼び物だつた端艇競走の選手の主将大場信続の諸君があつた。前 2 人の他は今も健在である。

---

* 仙台市[redacted]. [redacted] Sendai City.